



スクールカウンセラーだより

令和7年 第1号

「子どもの叱り方を考える」その3

みなさまお元気ですか？「あら、最近カウンセラー便りがないわね。ひょっとしたら、もらい忘れたのかも・・・」と思われたみなさまもおられるかもしれません。すみません。前回は今年の夏、「子どもの叱り方を考える」その2でした。その1は令和5年でしたね。お届けするのが遅くなってしまいました。今年はがんばってたくさん発信したいと思いますので、読んで下さいね。

【2】「正しいことを押し付けるな！」の法則

叱るときというのは、たいがい子どもが何か良くないことをしたときです。その時、親や教師（大人）は正論、つまり正しいことを子どもに言います。

それは決して間違いではありません。ですが、「正しいことを言えば正しく子どもに伝わる」とは限りません。

だいたい、正しいことを言っている人は絶対に引きません。なぜなら、正しいことを言っているからです。

正しいことを言う人は、自分が正しいという確信があるので、相手がどんな理屈を言ってきたとしても、必ず上からかぶせます。万引きは犯罪だ！やってはいけないことだ！

正しいのですが、「なんで万引きしたのか・・・」子どもはこれを聞いて欲しいのです。

万引きは悪いことだ、は、 $1 + 1 = 2$ だ！と同じです。分かりやすいけれど、答えが出た時点で話は終わり、分かってもらえないと思った子どもはまた同じことを繰り返します。

大人は自分が正しいということに守られ、強い位置にいますよね。子どもをこってんぱんにやっつけるのが目的であれば、正論で詰めて、頭を下げさせればいいのですが、叱る目的は何でした？相手をより良い方向に導こうとするために、注意やアドバイスをすること。同じ間違いを繰り返さないために話をする。

つまり「正しい方向に導く」・・・でしたね。

私（大人）の考えは正しい、絶対間違っていない。だけど、万引きが悪いことくらい子どもでも分かっています。

「嘘をつく」「盗む」・・・子どものこの問題行動の意味を考えるのに、親や教師の正論は邪魔になるということを覚えておいて下さい。

一人で悩まずにキンダーカウンセラーに相談してみませんか？あらゆる心理技法を駆使して、みなさまのメンタルヘルスをお守りします

～～ご予約について～～

完全予約制です。開設日時は学校にお問合わせください。初回のご予約は先生を通じてお申し込みください。
2回目からは相談室で直接予約していただけます。

皆様のご来室を、心よりお待ちしております。

キンダーカウンセラー 古川秀明